

JAMの主張

「村田きょうこ」支援に感謝 現場の声を議員へ 世の中を変えよう

【機関紙JAM・2022年7月25日発行 第282号】

先に行われました第26回参議院通常選挙におきましては、「村田きょうこ」への熱いご支援を頂き、誠にありがとうございます。私たちJAMが最後に参議院比例代表選挙に勝利したのが、津田弥太郎参議院議員の二期目の挑戦でしたので、実に12年ぶりの勝利ということになります。

この間、何度も職場組合員の皆様に悔しい想いをさせており、今回は何としても勝たなければならないという強い決意をもって選挙戦に取り組んでまいりました。この勝利をすべての組合員の皆様と共に喜び合いたいと思います。

しかしながら、得票数は12万5千票であり、残念ながら前回の14万3千票からは落としてしまいました。それぞれの地方JAM、それぞれの単組が前回は上回る熱量をもって選挙戦を戦っていただいたにもかかわらず、票を落としてしまったことは極めて残念であり、JAMとして厳しい総括が必要であると考えております。

現場で何が起こっていたのかを知る必要がありますが、今回の選挙はJAMのみならず、総じて組織選挙が弱体化をしており、これまでのやり方では通用しないことは明らかです。職場組合員との対話を通じて、私たちの運動に欠けているピースを見つけなければなりません。

とは言え時代の大きな転換期にあたり、ものづくり産業で働く仲間の声、中小企業で働く仲間の声、JAMに集うすべての働く仲間の声を直接国会に届けることができるようになり、私たちがめざす誰一人取り残されない持続可能な社会の実現に向けて大きな一歩を踏み出すことになりました。

「村田きょうこ参議院議員」の活動はこれから始まります。どのような小さな声でも構いませんので、現場の声をできるだけ多く、「村田きょうこ議員」の下に届けていただきたいと思えます。もしかしたら、思いもよらないような解決策が見つかるかもしれません。

現場から聞こえてくる小さいけれども切実な声が集まれば世の中を変えることができます。共にがんばりましょう。

会長 安河内賢弘